

初めてのカラマズー訪問

渡辺 郁子

不安と期待を抱きながら、13時間の空路の旅を終えて、デトロイト空港からバスで約1時間。カラマズー市役所前に着いたのは、7月20日夕方頃です。チアガール姿のハイスクールの女生徒さんの元気な出迎えを受け、私達18名はホームステイを受け入れて下さる夫々の家庭に、分かれて行きました。

私の家族は、アンダーソン一家。ロバートさんと美智子さん、今秋、中学と高校に進む義也君と光一君の四大家族です。市役所から15分程の所にあるパリスタウンという、緑に囲まれた広大な森の中にある住まいは、とても静かで、夕暮れは午後9時すぎ頃。夕食後、散歩する私達5人を、大きな樹木が見守ってくれているようで、木の間から見える夕焼け空は淡く優しげでした。

21日は、家族でダウンタウンへ。レトロな駅舎を巡り、レトロムード溢れる店でランチ。ピザのサイズの大きなこと！私のリクエストで、永井荷風が留学したと言うカラマズーカレッジへ！赤レンガ造りの瀟洒な学舎が、「あめりか物語」に荷風が描いた、静かな丘の上の風景そのままに建っています。キャンパスを歩いたあと、その日は、夕食前に皆でベースボール。私はキャッチャーです。お兄ちゃんがホームランを二本出して、よっちゃんは悔しそう。でも、その後のバーベキューですぐご機嫌になりました。



22日、早朝の野菜市場やスーパーで買い物を済ませてから、レールロード・クロッシングを楽しみ、セミの抜殻さがしなどしてから、晚餐会に備えてお昼寝。ガル・レイク・カントリー・クラブでの歓迎会は、黄昏せまる湖を前に、料理もジャズバンドもすてきな中での、楽しいパーティーでした。

23日、ヨガとゴルフの初体験。おしゃれなランチを戴き鉄道博物館の見学です。ここには、是非、アンダーソン兄弟を連れてきたい・・・私の切

なる願いです。カラマズー市に戻り、パブリック・メディアで、市民訪問団としてのインタビューに市立高生が出演。

私は一カメを動かして、初めての撮影体験をします。



24日、JAYCO社でキャンピ

ングカー製造過程を見学。そして、アーミシュの生活をこの目で見て驚き、改めて生きる事の本質の何であるかを考えさせられたのです。文明を拒否して、今尚馬車に乗り・・・私には想像も出来ない暮らしを現に送っている人々が居るのです。ショックでした。蚤の市で、気楽な買い物をしつつも、何となく思いは複雑です。

25日、ベーカリーでトリュフとクッキーを試食の後、ラベル印刷・ビール工場の見学。夜は、カーボーイファッションでラインダンスに酔い、アメリカらしさを満喫。



26日、チェルシー製粉会社・テディーベアファクトリー・ケログ邸の見学。

27日、ミシガン湖で海賊船に乗り綱を操る体験は、まさに、海賊気分満点でした。

28日、ホームステイも最終日、「今日でお別れ」・・・KOTOBAには出さないながらも、私達五人は、ウエスト・ミシガン大学のキャンパスをゆっくりと歩き、アヒルやガチョウが数百羽も遊ぶ市民公園の散策を楽しみました。よっちゃんと光ちゃんが入学する中・高校を一目みて家路についたのです。そして、おやつは私の手作り抹茶だんごとお好み焼き、それに、アメリカのケーキもつくミニパーティー。その後、お互いに、筆で似顔絵を描きあっている内に、夜がふけ・・・。

「沼津からの私達を、もてなして下さった、カラマズーの皆さん。善意あふれる真心に、心から感謝します。来年、沼津でお目にかかれますよう。」